

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	4075400376		
法人名	有限会社 ハートケアなごみ		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地 (電話番号)	〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧字西牟田1969番地 (電話) 0949-43-1753		
評価機関名	特定非営利活動法人北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年3月23日

【情報提供票より】平成22年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤(専任7人 兼務2人) 非常勤 0人 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	築4年
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	管理費 12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成22年1月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 鞍手町立病院	・ りんご歯科
---------	----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム なごみは、のどかな田園地帯の中にあり、満開の梅林は春の気配を感じ、1ユニットの建物は、家庭的な雰囲気である。庭の木製のベンチや咲き始めた花壇の花は、建物と周りの景色に調和し、落ち着いている。利用者の健康管理は24時間の医療機関と連携し、栄養士によるカロリー計算と、個々の好物を取り入れた料理で、食欲も旺盛で、元気な元である。「住み慣れた地域で、利用者が自分らしく生き生きと、尊厳のある生活を送れるように支援していく」という理念の下、代表者、管理者、職員は、利用者や家族がいつまでも安心して暮らせるように、細やかな介護サービスを実践し、家族との関係も良好である。また、老人会特別会員として、地域の夏祭りに参加し、盆踊りは、町内会の方が来訪し、ホームの庭で踊ったり、採れたての果物や野菜の差し入れ等があり、開設して4年目を迎え、地域との交流も始まっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は 重度化や終末期に向けた方針の共有 災害対策の2件であったが、は看取りの指針を作成し、家族と連絡を密にとり、関係者と情報を共有する体制が出来ている。今回は引き続き、地域住民の協力で避難訓練の実施と災害時の非常食、飲料水の備蓄、人権研修、啓発活動の開催日、参加者、研修会記録等の整備の2件の努力が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が会議の中で自己評価について話し合い、管理者が取りまとめ、作成している。自己評価作成に職員が参加することで、評価結果が、気になり、問題点等を話し合い、目標を持って介護支援が出来るように職員一人ひとりが頑張っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に、利用者、家族、民生委員、地区区長、役場職員、ホーム管理者、計画作成担当者等が参加し、活発で有意義な意見交換の場として、18回開催している。今後は会議がマンネリ化せず、発展していくために、議題や参加者等、充実させ、より活発で双方向的な会議になるよう努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱や苦情受付窓口を掲示しているが、意見や要望が出てこないの、管理者、職員は誕生会、クリスマス会、夏祭り、支払時等、家族来訪時に、出来るだけ親しく話し合い、利用者の状態や暮らしぶりを報告し、家族の要望、心配事等を聴き、利用者や家族が安心して過ごしていけるように、に努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の老人会特別会員にしてもらい、町内の行事に参加したり、行政主催のふれあいフェスタに利用者と職員が参加したり、ホーム職員手作りのバイキングに地域の方や家族が参加して、交流の輪が、少しずつ大きくなっている。また、介護相談会などを行政と協働で企画し、地域の高齢者が、安心して暮らせる地域づくりを目指している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員が寄り添いながらその人らしい生活が出来る様に「住み慣れた地域の中で地域の一人として自分らしく生き生きと尊厳のある生活を支援する」という理念を掲げ、地域密着型サービスの意義を謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、毎朝の朝礼時に唱和し、管理者、職員は確認し合って実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組には加入していないが、地域老人会特別会員として地域の夏祭りへ参加し、ホーム前の庭を開放している。地域の方からの野菜の差し入れなど地域の一人として、交流が行われている。又、家族や地域の方の参加による職員手作りの食事バイキングは、盛大で好評を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を管理者、職員が理解し、改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、家族の訪問時の意見等も参考に、全員で話し合い作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回行われている。参加者は地域の区長、民生委員、行政の職員、家族代表等で開催し、活発な意見交換の場となっている。外部評価表での改善点なども話し合われ、サービスの質の向上に活かしている。会議で提案された道幅の改善は、少し前進し、救急車の出入りが可能になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催で、地域住民参加の介護教室の講師派遣や、ふれあいフェスタへの参加など、市町村との連携に積極的に取り組んでいる。又、福祉課高齢班とは、運営推進会議以外でも連携が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護について学んでいる。成年後見制度や、日常生活支援事業の制度を理解し、パンフレットなども用意し、必要な人には支援できるような体制が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回「なごみ通信」を発行し、利用者の日常の状況や、金銭管理の報告を行っている。又、緊急の場合など電話連絡を行っている。家族の訪問は多く、その都度健康状態などの報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが意見は入らない。家族の訪問が多くその都度管理者や、職員に意見や希望などが、表しやすい雰囲気である。出された意見は、出来るだけ運営に反映するように対応している。家族だけで話し合える家族会の設置を検討している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのコミュニケーションを通じて馴染みの関係を構築していて、職員の定着率は良く、利用者へのダメージは少ない。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、ハローワークを通じて行い、採用に関しては性別、年齢などの制限はない。職員の持ち味が発揮できるように、研修や社会参加が出来るよう勤務体制などに配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	人権に関する研修会に参加し、ホーム内での伝達研修を行い、言葉遣いや態度など利用者の人権を尊重した対応をしているが、研修記録はつくりだされていない。		研修は実施しているので、記録を残し、必要な時や再研修時に活用することが望まれる。人権教育・啓発活動等は、繰り返しの学習によってより理解を深めていくので、記録を整理し、いつでも使用できることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、外部研修や内部研修に取り組んでいる。職員の研修会への参加確保のためには、積極的に参加できるように勤務体制に配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加し、他のホームとの交流に努めている。地域の徘徊ネットワークに加入し、地域のグループホームとの交流も深めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の体験入居の制度はあるが、今のところ利用はない。ホーム見学を実施、本人や家族の希望を聞きながら、馴染みながら、自然に入居できるような暖かい雰囲気でも対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が日々の生活の中で、一緒に過ごしなが喜びや悲しみを共有している。利用者の生活の知恵や料理を教えてもらいながら、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は暮らしの中から、利用者一人ひとりの思いを把握している。表出が困難な場合は、家族から聞き取ったり、本人の表情から汲み取っている。又、朝のミーティングで本人の希望や意向を検討し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人、家族の意向を聞きながら、本人がより良い暮らしが出来るように職員全員の意見やアイデアを出し合い作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとに見直しを行っているが、利用者に変化があればその都度見直し、本人や家族の意向や、関係者との話し合いをし、利用者本意の介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の手作りで行なわれる、年3回の家族や地域の方とのバイキング食事会や訪問理・美容等、田圃に囲まれ、のどかな自然環境を活かし、地域の中に溶け込んだ支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医で、受診できるよう支援している。ホームの提携医療機関である町立病院と24時間対応が出来る体制が整っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで見取りの経験はないが、本人や家族、かかりつけ医、関係医療機関と話し合い、ターミナルケアの指針を作成し、利用者の心身の情報を職員全員が把握し、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳に配慮し、プライバシーを損ねるような対応はしていない。プライバシーの保護や、個人情報保護に関する勉強会を行い、個人の記録は鍵のかかる場所に保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、その日その時の本人の状況や、朝遅く起きられる方の朝食の時間など、本人の希望に添った暮らしを支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望、栄養面を考慮し栄養士が作成している。利用者、職員と一緒に同じ食事を摂りながら、さりげない支援をしている。食事時も土筆やせり摘みの話などで、楽しい食事風景である。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や、時間的タイミング、心身の状況を考慮しつつ柔軟に対応し、夕方の入浴は8時ぐらまで、利用者の希望の時間に入浴できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を活かした役割や楽しみごとに応じた支援をしている。地域の方に、いただいた柿を、干し柿にしたり、書道の先生をされていた利用者が、きれいな字でカレンダーを作られたり、毎日のメニューを作成されたりと、生活暦を活かした楽しみごとや気晴らしの支援がなされている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど本人、家族の希望を優先し、1人ひとりのペースを大切にしたり関わり方をしている。ホームではお刺身を食べることが困難なため、外食などで楽しんでいる。時には家が心配だといわれる利用者の家や、お墓参り等、できるだけ戸外に出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないケアを実践し、鍵をかけることの弊害を理解し、鍵はかけていない。利用者の表情や行動パターンから外出の気配を察知し、外に出られるときは一緒に出かけるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は行っている。非常食の備蓄、避難場所の確保、避難時の防寒具の準備等は出来ているが、夜間を想定した、地域の方との協力体制までは至っていない。		夜間を想定した避難訓練は、地域の実情など考慮すればかなり困難と思われるが、地域住民参加への働きかけの体制作りが望まれる。
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や、水分量が詳細に記載され、利用者一人ひとりの状態に応じた支援がなされている。食事の献立は栄養士が行い栄養バランス面の配慮がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中央に広い居間があり、窓からは見渡す限り田園風景が広がり、気持ちの良い共用空間になっている。天窓からは柔らかな日差しが差し込み明るく開放的で、思い思いの時間を過ごしている。季節がらお雛様が飾られて、居間全体が柔らかな雰囲気にも包まれ、昼食の準備の美味しそうな臭いが漂い、家庭的で心地よい。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、利用者の好みの家具や使い慣れた椅子、布団、仏壇等、使い慣れた馴染みの物を活かし、心地良く過ごせる居室になっている。家族の宿泊も居室で出来るように、家族用の寝具も用意されている。		